

# 体験を積み重ねて 子どもの育ちと学びは つながっています

小学校入学。新しい学校、新しい環境。  
4月は、子どもも大人も少し緊張する時期です。  
このような中で、1年生は、幼児期の多様な体験を  
生かしながら、一歩ずつ前に進んでいます。



思いを伝え合う



試行錯誤する

自信をもって行動する

子ども一人ひとりが身に付けた様々な力を、  
小学校でも安心して発揮できるよう、  
子どもたちの育ちや学びを支えています。



子ども一人ひとりのこれまでの体験を生か  
し、思いを大切に

## 3つの「どう」

- ★「(園・前の学年では) どうしてた?」  
(これまでの体験を引き出す)
- ★「どうしたい?」「どうしたらいいかな?」  
(一人ひとりの思いや考えを大切に)
- ★「やってみて、どうだった?」  
(活動や学習を振り返る)

これらの言葉かけは、子どもが**自分の体験を  
言葉にし、考えを深めていく**ことにつながります。  
家庭でも、お子さんの声に耳を傾け、思いや  
考えを大切にしましょう。

問合せ先 滋賀県幼児期教育センター ☎077-528-4661

## ホールの子事業 びわ湖ホール音楽会へ出かけよう!

滋賀県では、舞台芸術への関心を高め、豊か  
な心や感受性を育むことを目指して、「ホール  
の子」事業を開催しています。対象は、県内の  
小学校および特別支援学校等の児童・生徒で  
す。びわ湖ホールを会場に、びわ湖ホール声楽  
アンサンブルとオーケストラによる音楽公演を  
平成23年度から開催しています。

令和7年度は、過去最多の203校から12,777  
人の子どもたちが参加しました。「みんなで歌  
おう♪」の時間には、大ホール全体に子どもた  
ちの明るく元気な「翼をください」が響き渡り  
ました。

びわ湖ホールの改修工事に伴い令和9年度  
は事業を休止することから、令和8年度は公演

問合せ先 文化芸術振興課 ☎077-528-3345

数を増やして、5月27日(水)～29日(金)、6月  
1日(月)～5日(金)の8日間16公演を実施予  
定です。

また、5月30日(土)には同じプログラムで  
の一般公演(有料)を実施します。一般公演は  
大人の方にもご鑑賞いただけますので、滋賀  
県が誇る本物の体験を、ぜひご家族で体感し  
に来てください!

過去の「ホールの子」事業の様子は滋賀県  
公式YouTubeチャンネルに掲載されていま  
す。下の二次元コードからご覧ください。



## 知っているようで知らない 子どものこころとからだ



子どもがくり返し訴える症状(頭痛や腹痛、倦怠感や気持ち悪いなど)  
は、周囲から理解されにくく当事者がつらい思いをしていることがあり  
ます。でも、周囲の大人が知っていることで、子どもの支えになります。



### その“香り” 困っている人もいます

#### 化学物質過敏症の原因のひとつ

柔軟剤などの合成香  
料で体調不良を起こし、  
困っている人がいます。

学校等で共有する給  
食エプロンを洗濯する  
際は、強い香りの柔軟  
剤の使用を控えるなど、  
ご理解とご配慮をお願  
いします。



### 「朝がつらい…」それは、 “なまけ”ではありません

#### 起立性調節障害

自律神経の不調により、午前  
中の調子が悪かったり、立ちく  
らみやめまいを起こしたりしま  
す。午後から少しずつ元気になる  
ので、見た目ではわかりにく  
いものです。

生活リズムを整え  
ることが予防につな  
がります。



### お腹の不調で 困っている人がいます

#### 過敏性腸症候群

特に臓器に異常がみられな  
くても、腹痛や便秘、下痢な  
どをくり返すことがあります。

ストレスや緊張で症状が出  
やすくなることもあるため、  
周囲の理解があ  
ると安心して過ご  
せます。



### 子どもの様子が いつもと違うと感じたら…

こころやからだにストレス  
を感じると、好きだったことが楽し  
めなくなったり、怒りっぽくなったり、  
気分が落ち込むなどの変化が見ら  
れます。

お子さんに気になる様子があれば、  
学校の先生やスクー  
ルカウンセラーに相談  
してください。



問合せ先  
保健体育課 ☎077-528-4614

### 過去のシリーズ人権教育は、 こちらをご覧ください。



「相手チームの監督が高校の先輩で、さつきしゃべって  
たんだけど、外国にルーツのある子の中には、言葉が  
十分に伝わらなかつたり、文化の違いで戸惑ったりして  
地域で孤立している家庭の子もいる。だから、サッカー  
をしている間くらいはのびのびやらせてあげたい」と  
ルーツに関係なく全ての子どもを大事に考えて  
いる先輩を改めて尊敬したよ。」  
その言葉を聞いて、今までの自分の見方を少しずつ振り  
返りました。いかに表面的に物事をとらえ、外国にルー  
ツのある子の困難やその奥にある思いを考えもしてい  
なかつた自分を恥ずかしく思いました。そして、職場で、  
地域で、家庭で、何気ない会話の中でも「多様な在り方  
を尊重できているか」と度立ち止まり、互いの違いを認  
め、活かし合える関係を大切にしていきたいと強く思  
いました。

## グラウンドで 学んだ多様性



休日の朝、私は小学六年生になる息子のサッカーの試  
合を観戦するため、近所のグラウンドに行きました。試  
合開始前、両チームの選手たちが整列しています。相手  
チームを眺めると、外国にルーツがあると思われる子  
どもたちが半数近くいました。その様子を見て、私は隣  
の友人に何気なく口にした。「相手チーム、外国にルー  
ツのある子が多いね。体も大  
きくて強そうだし、なんかずるくない?」  
友人は静かに言いました。  
「それって、偏見かもしれないね。」  
「いや、そんなつもりで言ったわけじゃないんだけど...」  
「そう返事をしましたが、試合が始まって、友人の言葉  
が頭から離れませんでした。改めて相手チームの子ど  
もたちを見てみると、上手な子もいれば、思うように動  
けず悔しそうな表情を浮かべている子もいます。」  
試合後、息子が汗だくで駆け寄り寄ってきました。  
「今日の試合、どうだった?」  
「今口の試合、どうだった?」  
と聞くと、  
「楽しかった! みんな一生懸命がんばっていたよ。」  
私は、さっきの自分の言葉を思い出しながら、少し迷っ  
て尋ねました。  
「相手チーム、外国にルーツのある子が多かったね。」  
すると息子は、不思議そうな顔で言いました。  
「え?うちのクラスにもいるよ。みんなで遊ぶし、サッ  
カーも一緒にやってる。外国の子も日本の子も、得意なこ  
ともあれば苦手なこともあるし、それぞれ違うんじゃない  
かな。」  
私は「ハッとすると共に感じました。今の子どもたち  
は、小さい頃から当たり前に一緒に遊んだり、勉強した  
りして自然と多様性を受け止めていたからです。  
片づけをしながら、私は友人に声をかけました。  
「どうやら自分も偏見を持っていたようだよ。」  
友人は少し考えてから言いました。  
「相手チームの監督が高校の先輩で、さつきしゃべって  
たんだけど、外国にルーツのある子の中には、言葉が  
十分に伝わらなかつたり、文化の違いで戸惑ったりして  
地域で孤立している家庭の子もいる。だから、サッカー  
をしている間くらいはのびのびやらせてあげたい」と  
ルーツに関係なく全ての子どもを大事に考えて  
いる先輩を改めて尊敬したよ。」